

令和５年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

夢をかたちに（ Scale up your Dream, and Build up your Future. ） 生徒が自らの進路に夢や希望を抱き、高い志を持ってその実現に向けて必要な力を身に付けるとともに、地域社会に積極的に参画し貢献できる人材を育成する学校をめざす。 【生徒に育みたい力】 日根野高等学校 校訓「自立・共生・友愛」 1 高校三年間の様々な体験的学習を通し、発見・驚き・感動を自信に繋げ、将来の夢を見定め実現していく力。 2 地域社会の発展に寄与するための高い志を持ち、自らを律し社会人として自立する力。[自立] 3 異文化や異なる価値観を理解し、身の周りから世界に至るまでの様々な人々と共生できる力。[共生] 4 ボランティア活動等の実践を通し、基本的人権を尊重し社会に奉仕貢献できる力。[友愛]

2 中期的目標

1. 授業改善を行い「確かな学力」を育成し、生徒の進路実現をめざす （1）主体的・対話的で深い学びを探究し、「発想力」「課題解決能力」「主体的に学ぶ力」を育成する授業の実現をめざして授業力の向上に取り組む。 ア、教員間の相互授業観察や研究授業を推奨し、授業アンケートを活用した振り返りを丁寧に行い、授業力向上に取り組む。 イ、ICT 機器を効果的に活用し、生徒個々の能力に応じた最適な学びを提供する。 ウ、授業における生徒の言語活動を活性化し、主体的で対話的な学びを提供し、学びの深化をめざす。 ※授業アンケート総合スコア(令和7年度には3.3以上（R2 第1回3.21 第2回3.18、R3 第1回3.25 第2回3.22、R4 第1回3.29 第2回3.31)を維持する) ※生徒向け学校教育自己診断「ICTを活用した授業への満足度」(令和7年度には85%以上(R3 80%、R4 84%)とする) ※授業アンケート「考える時間や発表する活動を多く取り入れている」 (令和7年度には3.3以上（R2 第1回3.20 第2回3.20、R3 第1回3.25 第2回3.28、R4 第1回3.30 第2回3.30)を維持する) （2）特色ある専門コースを持つ普通科高校として、コースに特化した進路実現をめざす。 ア、コースや科目選択時のガイダンスを充実させ、生徒の進路実現を適切に支援する。 イ、本校のキャリア教育「ひねのプログラム」を推進し、生徒一人ひとりの夢の実現に向けて取り組む。 ※生徒向け学校教育自己診断「コース選択・科目選択への取り組みに関する満足度」(令和7年度には85%以上(R2 85%、R3 86%、R4 88%)を維持する) ※看護・医療系進学者数(令和7年度には25%以上(R2 29%、R3 24%、R4 24%)を維持する) ※幼児教育・保育系進学者数(令和7年度には5%以上(R2 4%、R3 4%、R4 6%)を維持する) ※国公立大学・難関私立大学（関関同立・産近甲龍）進学者数(令和7年度には10%以上(R2 7%、R3 6%、R4 3%)とする) （3）生徒一人ひとりに対して丁寧で細やかな指導を行い、夢の実現を支援し、生徒・保護者の満足度を向上させる。 ア、志学・道徳教育・人権教育・キャリア教育・進路指導を系統的に結合したキャリア教育「ひねのプログラム」を活用し、生徒の能力を伸ばす。 イ、分野別進路説明会を開催するとともに、進路に特化した専門学校等の講師を積極的に招聘し、講習、講話の機会を確保し、進路の実現を支援する。 ウ、魅力ある教育活動や進路実現を提供し、もっと入りたい学校の実現をめざす。また、広報活動を積極的行い、入学志願者を確保する。 ※生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方をよく考える機会がある」(令和7年度には90%以上(R2 92%、R3 89%、R4 94%)を維持する) ※入試志願者倍率(令和7年度には1.15倍以上(R2 1.21倍、R3 1.23倍、R4 1.19倍)を維持する) 2. 豊かでたくましい人間性をはぐくむ （1）人権・多様性を尊重する教育を推進し、差別やいじめを許さない意識、なくす実践力を育てる。 ア、「大阪府いじめ防止基本方針」に従い、全校でいじめの未然防止・早期発見・早期解決に取り組む。 イ、社会性にも繋がる生活習慣の確立、挨拶の励行、他者を思いやる心の育成、善悪の判断ができる意志の育成等を図る。 ウ、障がい者・女性・子ども・同和問題・在日外国人・性的マイノリティ等様々な人権に関わる問題の解決をめざした教育を推進する。 ※生徒向け学校教育自己診断「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応」(令和7年度には85%以上（R2 79%、R3 85%、R4 89%)を維持する) ※のべ遅刻者数/4-12月（令和7年度には2,500人以下(R2 2,948人、R3 2,882人、R4 3,632人)とする) （2）急速な情報化の進展に伴うインターネットトラブルの増加に対して、正しい情報モラルを育成し、望ましい人権意識を育てる。 ア、インターネット上の諸問題に対し、教科「情報」の授業やHR等を通して指導しトラブルを未然に防ぐ。 イ、保護者と教職員とが連携を深め、学校、保護者、地域が一体となった人権教育の充実を図る。 ※生徒向け学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があった」(令和7年度には85%以上(R2 78%、R3 80%、R4 81%)とする) ※保護者向け学校教育自己診断「保護者の相談に適切に対応してくれた」(令和7年度には85%以上(R2 86%、R3 88%、R4 91%)を維持する) （3）部活動、学校行事、ボランティア活動等への参加を通して、生徒の自己肯定感を高め、互いに認め合い協力しあう生徒を育成する。 ア、地域の施設等とも連携し、発信・発表の場を多く設けることで、生徒が社会の一員としての自信と自覚を深め、社会貢献の意義と尊さを理解させる。 イ、部活動、学校行事を活性化し、生徒が自主的に活動、運営することにより、自己肯定感を高め、互いに認め合い協力しあう生徒を育てる。 ウ、生徒会活動等を通して、生徒の自主性・自律性を育成し、生徒が主体的に自己実現を図る力を育てる。 ※部活動加入率（令和7年度には65%以上(R2 66%、R3 62%、R4 55%)とする) ※生徒向け学校教育自己診断「学校行事は楽しく行えるように工夫されている」(令和7年度には85%以上(R2 73%、R3 88%、R4 88%)を維持する) ※生徒向け学校教育自己診断「先生の指導は納得できる」(令和7年度には80%以上(R2 73%、R3 73%、R4 79%)とする) （4）保護者へ情報提供を積極的行うと共に、保護者等の意見を教育活動に取り入れ、開かれた教育活動を推進する。 ア、多様な手段を用いた情報発信を行うとともに、情報収集を積極的行い、意見を反映した学校経営を行う。 ※保護者向け学校教育自己診断「教育活動に関する満足度」(全項目の平均)(令和7年度には85%以上(R2 80%、R3 85%、R4 85%)を維持する) ※保護者向け学校教育自己診断「教育情報についての提供努力満足度」(令和7年度には90%以上(R2 87%、R3 93%、R4 91%)を維持する) 3. 安全で安心な学び場を作るとともに、働き方改革を実現する （1）障がいのある生徒への理解を深め、SCとの連携を図りながら合理的配慮や自立の支援を行う体制づくりを行う。 ア、支援を要する生徒について個別の支援計画を作成し、生徒一人ひとり教育的ニーズを把握し、効果的な指導、支援の充実を図る。 （2）生徒が相談しやすい体制を構築し、関係機関と連携を深めながら、生徒支援体制の充実を図る。 ア、体罰やハラスメント・ネット被害・ストーカー被害等に係る相談などに対する相談体制を構築し、生徒に寄り添う学校づくりを進める。 ※生徒向け学校教育自己診断「担任以外にも気軽に相談することができる先生がいる」(令和7年度には75%以上(R2 71%、R3 66%、R4 77%)を維持する) （3）危機管理を徹底し、安全で安心な学び場づくりを推進する。 ア、講習会等を定期的に開催し、感染症、薬物中毒、食中毒等の予防や防止、熱中症や食物アレルギー等による事故防止に取り組む。 イ、地震や台風などの自然災害に備えた体制を充実させ、避難訓練の実施等を通して防災教育に取り組む。 （4）教員の働き方改革に取り組む。 ア、業務の電子化を進め、事務作業量を軽減するとともに、会議の精選、会議時間の短縮を行い、校務運営の効率化に取り組む。 イ、全校一斉退庁日の取り組みを推進し、教職員の時間外在校時間の縮減を図る。 ※「学校ストレスの総合リスク値」(令和7年度には95以下(R2 91、R3 85、R4 87)を維持する) ※「時間外在校時間」(令和7年度には26時間以下（R2 28時間、R3 28時間、R4 27時間）とする)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和５年１２月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R４年度値〕	自己評価
1. 授業改善を行い「確かな学力」を育成し、進路の実現をめざす	(１) 主体的・対話的で深い学びを探究し、「発想力」「課題解決能力」「主体的に学ぶ力」を育成する授業の実現をめざして授業力の向上に取り組む	ア、教員間の相互授業観察や研究授業を推奨し、授業アンケートを活用した振り返りを丁寧に行い、授業力向上に取り組む イ、ICT 機器を効果的に活用し、生徒個々の能力に応じた最適な学びを提供する ウ、授業における生徒の言語活動を活性化し、主体的で対話的な学びを提供し、学びの深化をめざす	ア、授業アンケート総合スコア 3.3 以上を維持〔第１回 3.29 第２回 3.31〕 イ、生徒向け学校教育自己診断「ICT を活用した授業への満足度」85%以上〔84%〕 ウ、授業アンケート「考える時間や発表する活動を多く取り入れている」3.3 以上〔第１回 3.30 第２回 3.30〕	
	(２) 特色ある専門コースを持つ普通科高校として、コースに特化した進路実現をめざす	ア、コースや科目選択時のガイダンスを充実させ、生徒の進路実現を適切に支援する イ、本校のキャリア教育「ひねのプログラム」を推進し、生徒一人ひとりの夢の実現に向けて取り組む 「ひねのプログラム」 ・定期的に「進路意識調査」を実施し、進路に対する意識を明確化させ、知識を高める ・講師を招き、希望する進路に分かれての講話や説明会を実施する ・総合的な探究の時間を活用し、進路に関する探究活動を実施する	ア、生徒向け学校教育自己診断「コース・科目選択への取り組みに関する満足度 88%以上を維持〔88%〕 イ、国公立・難関私立大学(関関同立・産近甲龍)の合格者数 20 名以上〔8 名〕 ・幼児教育・保育系合格者数 10 名以上〔15 名〕 ・看護・医療系合格者数 60 名以上〔57 名〕 ・大学入試共通テスト受験者数 20 名以上〔16 名〕	
	(３) 生徒一人ひとりに対して丁寧で細やかな指導を行い、夢の実現を支援し、生徒・保護者の満足度を向上させる	ア、志学・道徳教育・人権教育・キャリア教育・進路指導を系統的に結合したキャリア教育「ひねのプログラム」を活用し、生徒の能力を伸ばす イ、分野別進路説明会を開催するとともに、進路に特化した専門学校等の講師を積極的に招聘し、講習、講和の機会を確保し、進路の実現を支援する ウ、魅力ある教育活動や進路実現を提供し、もっと入りたい学校の実現をめざす。また、広報活動を積極的に行い、入学志願者を確保する	ア、生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方をよく考える機会」90%以上を維持〔94%〕 イ、外部講師による特別授業等年 30 回以上を維持〔47 回〕 ウ、入試志願倍率 1.15 倍以上を維持〔1.19 倍〕	

府立日根野高等学校

2. 豊かでたくましい人間性をほぐむ	(1) 人権・多様性を尊重する教育を推進し、差別やいじめを許さない意識、なくす実践力を育てる	ア、「大阪府いじめ防止基本方針」に従い、全校でいじめの未然防止・早期発見・早期解決に取り組む イ、社会性にも繋がる生活習慣の確立、挨拶の励行、他者を思いやる心の育成、善悪の判断ができる意志の育成等を図る ウ、障がい者・女性・子ども・同和問題・在日外国人・性的マイノリティ等様々な人権に関わる問題の解決をめざした教育を推進する	ア、生徒向け学校教育自己診断「いじめに真剣に対応」85%以上を維持[89%] イ、のべ遅刻者数/4-12月3,200人以下[3,632人] ウ、人権学習を各学年3回以上実施[1年(7回)2年(3回)3年(5回)]	
	(2) 急速な情報化の進展に伴うインターネットトラブルの増加に対して、正しい情報モラルを育成し、望ましい人権意識を育てる	ア、インターネット上の諸問題に対し、教科「情報」の授業やHR等を通して指導しトラブルを未然に防ぐ イ、保護者と教職員とが連携を深め、学校、保護者、地域が一体となった人権教育の充実を図る	ア、生徒向け学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があった」82%以上[81%] イ、保護者向け学校教育自己診断「相談に適切に対応」85%以上を維持[91%]	
	(3) 部活動、学校行事、ボランティア活動等への参加を通して、生徒の自己肯定感を高め、互いに認め合い協力しあう生徒を育成する	ア、地域の施設等とも連携し、発信・発表の場を多く設けることで、生徒が社会の一員としての自信と自覚を深め、社会貢献の意義と尊さを理解させる イ、部活動、学校行事を活性化し、生徒が自主的に活動、運営することにより、自己肯定感を高め、互いに認め合い協力しあう生徒を育てる ウ、生徒会活動等を通して、生徒の自主性・自律性を育成し、生徒が主体的に自己実現を図る力を育てる	ア、校外での上演、展示回数6回以上[9回] イ、部活動加入率 58%以上[55%] ・生徒向け学校教育自己診断「学校行事は楽しく行えるように工夫されている」85%以上を維持[88%] ウ、生徒向け学校教育自己診断「先生の指導は納得できる」80%以上[79%]	
	(4) 保護者へ情報提供を積極的に行うと共に、保護者等の意見を教育活動に取り入れ、開かれた教育活動を推進する	ア、多様な手段を用いた情報発信を行うとともに、情報収集を積極的に行い、意見を反映した学校経営を行う	ア、保護者向け学校教育自己診断「教育活動に関する満足度」(全項目の平均)85%以上を維持[85%] ・保護者向け学校教育自己診断「教育情報についての提供努力」満足度 90%以上を維持[91%]	
3. 安全で安心な学び場を作るとともに、働き方改革を実現する	(1) 障がいのある生徒への理解を深め、SCとの連携を図りながら合理的配慮や自立の支援を行う体制づくりを行う	ア、支援を要する生徒について個別の支援計画を作成し、生徒一人ひとり教育的ニーズを把握し、効果的な指導、支援の充実を図る	ア、転、退学者数5名以下[7名]	
	(2) 生徒が相談しやすい体制を構築し、関係機関と連携を深めながら、生徒支援体制の充実を図る	ア、体罰やハラスメント・ネット被害・ストーカー被害等に係る相談などに対する相談体制を構築し、生徒に寄り添う学校づくりを進める	ア、生徒向け学校教育自己診断「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」78%以上[77%]	
	(3) 危機管理を徹底し、安全で安心な学び場づくりを推進する	ア、講習会等を定期的開催し、感染症、薬物中毒、食中毒等の予防や防止、熱中症や食物アレルギー等による事故防止に取り組む イ、地震や台風などの自然災害に備えた体制を充実させ、避難訓練の実施等を通して防災教育に取り組む	ア、教職員向け講習会及び生徒向け講習会を各1回以上[1回] イ、火災と地震を想定した避難訓練を各1回実施する[火災1回、地震1回]	
	(4) 教員の働き方改革に取り組む	ア、業務の電子化を進め、事務作業量を軽減するとともに、会議の精選、会議時間の短縮を行い、校務運営の効率化に取り組む イ、全校一斉退庁日の取り組みを推進し、教職員の時間外在校時間の縮減を図る	ア、「学校ストレスの総合リスク値」95以下を維持[87] イ、「時間外在校時間」27時間以内を維持[27時間]	